

廃棄物対策審議会議事録

会議名	平成25年度第2回廃棄物対策審議会
日時	平成26年2月7日(金) 午後1時30分～午後3時00分
場所	市役所第1庁舎3階庁議室
出席委員	篠山委員、稲葉委員、大谷委員、小木曾委員、高橋委員、橋本委員、恵良委員、鈴木委員、近藤委員、中西委員
欠席委員	龍田委員、秋山委員、矢野委員
議長	篠山委員
事務局	飯泉環境部長、片桐環境部次長兼リサイクル推進課長、互井クリーン推進課課長補佐、樋口リサイクル推進課長補佐、石戸リサイクル係長、金窪主事
傍聴人	無
議題	(1) 流山市一般廃棄物処理基本計画見直しについて (2) その他
資料	・一般廃棄物処理基本計画の中間見直しに係る現状分析及び策定指針(案) ・平成21年度実施アンケート調査票
議事要旨	別紙のとおり

議事要旨

<ul style="list-style-type: none"> ・開会（午後１時３０分） ・議題 <p>（１）流山市一般廃棄物処理基本計画見直しについて</p>	
議長	<p>議題（１）は「流山市一般廃棄物処理基本計画見直しについて」である。</p> <p>事務局から説明いただきたい。</p>
<p>～事務局説明～</p> <p>資料（一般廃棄物処理基本計画の中間見直しに係る現状分析及び策定指針(案)）を使用し説明を実施</p>	
議長	<p>事務局から、補足事項や資料の中で特に検討が必要な部分があれば説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>第２章、第３章について、特にご意見をいただきたい。</p> <p>また、３ページ記載の目標値については、平成２１年度策定の基本計画と同様の計算方法で、見直し後の目標値を設定したい。</p>
議長	<p>今回の資料では、前回指摘のあった実績数値についても記載されているので、前回に引き続き、議論願いたい。</p>
稲葉委員	<p>最終処分量が平成２３年度以降増加している理由を説明願いたい。</p>
事務局	<p>溶融スラグを道路舗装材等として再利用していたが、放射能の問題で、再利用できなくなり、最終処分せざるを得なくなったため、最終処分量が増加している。</p> <p>また、溶融飛灰を山元還元にてリサイクルしていたが、こちらも放射能の問題でリサイクルできなくなったため、最終処分量が増えた。</p>
議長	<p>３ページの目標値に関しては、現行計画と同様の方法で目標値を設定する方針としてよいか。</p> <p>また、６ページ以降は具体的な実績数値が記載されているので、このあたりについて審議していきたい。</p>
小木曾委員	<p>スラグとはどういったものなのか。</p>
事務局	<p>焼却後に出る燃え殻で、ガラス質のものである。</p> <p>以前はアスファルトに混ぜる砕石の代わりとして再利用していたが放射能の問題で再利用できなくなった。</p>
小木曾委員	<p>現在の計画の平成２６年度目標では、最終処分量は平成２４年度実績と比べ低い数値になっているが、新たな計画の目標値としてはどのように数値を設定するのか。</p>
事務局	<p>現行計画を策定した後に放射能の問題が発生したため、今回の見直しに伴って目標値をどのように設定すべきか、審議会の中で検討していただきたい。</p>
議長	<p>計画見直しにあたって、放射能の問題についてどのように記載するかは、審議会として検討すべき事項ではあるが、次回の審議会にて検討することとする。</p>
高橋委員	<p>３５ページの表３－１－６によると、ごみ処理経費については平成２０年度以降、増加傾向となっている。</p>

	放射能対策のために経費がかかっているのか、放射能対策の経費を加味せずともごみ処理経費が増加しているのかは資料からは読み取ることができないが、放射能対策についてかかった費用については明確に分けて記載すべきではないか。
事務局	放射能対策の関係で最終処分量が増え、また、最終処分の単価も上がっているため、ごみ処理経費が増加してきているが、単純には切り分けが難しい部分も多い。 また、焼却炉もある程度の稼働年数が経過しており、経年劣化もあるため、補修も必要になってきている。 長期の補修計画を立てるなど、安価になるよう努力している。
高橋委員	切り分けが難しいことは理解したが、審議会としては過去に有料化を検討したこともあり、放射能対策を除いてもごみ処理経費が増加しているのであれば、有料化の話につながってしまう可能性がある。 放射能の関係でごみ処理経費が増加しているのか、放射能の問題は関係なく増加し続けていくのか等も検討しなければならないのではないかな。
議長	現状ではごみの発生量は減少傾向にあるが、経費は増加傾向にある。 放射能が原因でごみ処理経費が増加していることを説明する一文を入れるか、経費の内訳のグラフを記載するか、いずれにしろ市民に説明ができるものとして見直し計画を作成しなければならないと考えるがいかがか。
稲葉委員	ごみ処理経費の増加は最終処分量の増加による影響が考えられるので、最終処分に係る費用とそれ以外の金額を分けて表示し、最終処分量の推移を出せば、ある程度の原因を特定できるのではないかな。
大谷委員	ごみ処理経費の中には、東京電力に請求している分の金額も含まれているのであれば、内訳を記載できないのか。 記載できるのであれば、ごみ処理経費の増加している金額のうち、市民が実際に負担する部分がわかるのではないかな。
事務局	実際の負担分の内訳となると、財源内訳に係る内容となり、決算として財源はどのようになっているかという説明が必要になる。
議長	見直し計画に記載するにあたり、具体的な数値が出しにくい部分も考えられるので、ごみ処理経費の増加分すべてが完全に市民の負担に繋がるのではなく東京電力の負担分も含まれている、ということがわかるような説明を記載する形も考えられるのではないかな。 また、放射能に関する表記の方法としては、関連する項目全てに説明を付記するか、放射能に関する項目を設けてまとめて記載するのかという2つの方法が考えられるが、具体的な表記方法については次回審議していきたい。 事務局は次回の資料について、見直し計画に記載する文章やデータについて検討願いたい。
橋本委員	廃棄物減量等推進員制度について、制度の拡充を検討するとあるが、自治会から選ばれた委員だけではなくて、市としてごみの出し方や集積所の管理について、市民に指導できる仕組みを作ることはできないかな。

議長	<p>拡充改善を検討するという形の記述になっているが、新たな仕組みを作るということか？</p>
橋本委員	<p>推進員制度については現状の記述で問題ないが、それとは別にゴミの出し方についての指導業務ができたらいいのではないか。</p>
事務局	<p>基本的にはゴミを捨てているところに職員が直接出向いてその場で指導や啓発を行うのは難しい。</p> <p>自治会の会議等に職員が出向くケロクルミーティング等を活用し、分別の方法を啓発していく。</p> <p>また、広報への掲載やゴミ出しカレンダー等での啓発を継続して実施していく。</p>
議長	<p>前回の審議会にて、ゴミ集積所の管理や利用については、近藤委員から成功事例の紹介もあった。</p> <p>成功事例を市民に紹介したり、実際に運用している方、例えば近藤委員に御指導いただくなど、成功している地域の方法から広めていくこともできるのではないか。</p> <p>具体的な検討は計画見直しの後に段階として実施すべき事項であるため、計画の見直しにおける記載としては、廃棄物減量等推進員の拡充改善を検討していくという現状の表記とし、具体的な内容については計画とは別に審議会でも審議、検討すべき事項とする。</p>
橋本委員	<p>家庭ゴミの正しい分け方出し方やゴミ出しカレンダーに、生ゴミの水切りをしているようなイラストがあると、市民の目に留まるので啓発効果があるのではないか。</p>
事務局	<p>家庭ゴミの正しい分け方出し方については保存版として作成しているため、すぐに修正することは難しいが、ゴミ出しカレンダーについては毎年作成しているため、次年度版に掲載できるか検討する。</p>
高橋委員	<p>資源ゴミの収集に係る経費は、集団回収への一本化前に比べ、経費としては減少しているのか。</p>
事務局	<p>以前は行政回収と集団回収の双方を実施していたが、集団回収への一本化に伴って行政回収の委託費用が無くなったため、その分の経費は削減されている。</p> <p>また、集団回収については、報償金、奨励金制度については以前と同じく実施しているが、行政回収が無くなった分、集団回収の回収量は増加しているため、報償金、奨励金に関しては増加している。</p>
鈴木委員	<p>流山市の報償金は1キロ当たり8円と他市より高い単価になっている。</p> <p>市況にあった金額に削減することはできないか。</p>
事務局	<p>今後、財政状況も鑑みていくと、削減について検討せざるを得なくなる可能性はあるが、現段階では8円として継続していく予定である。</p>
議長	<p>今回の計画に記載する形ではなく、別途審議会でも検討する事項としていくものとする。</p>
鈴木委員	<p>リサイクル推進店の店舗数についてはどのように増やす予定か。また、回収量は予想より上回っているため、目標値を上方修正できるのではないか。</p>

事務局	<p>現在、リサイクル推進店は更新制度となっているが、適切に更新されず廃止になっている店舗がある。更新制度を整備したうえで、大型スーパーや、ドラッグストア等を回り、店舗増加を目指す。</p> <p>回収量については短期の目標値を上回っているので、目標値の見直しができるかどうか、精査し検討していく。</p>
議長	<p>少量でも店頭回収に協力するという店舗があるのであれば、必ずしも店舗数と回収量が比例する必要はないと考える。</p>
大谷委員	<p>生ごみのディスポーザーについて、市はどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>ディスポーザーは粉碎後の生ごみを水と合わせて流すため汚濁負荷がかかることが懸念される。マンション等で設置されている場合もあるようだが、市では推奨していない。</p> <p>また、マンション等で設置している場合、浄化槽汚泥として処理されるため、ごみ発生量としては減少するが、浄化槽汚泥としては処理量が増えることとなる。</p>
飯泉環境部長	<p>平成20年度から平成24年度の数値を見ると、人口は増加しているが、ごみ発生量は減少している。</p> <p>通常は人口が増加すればごみ発生量も増加するはずなので、ごみ発生量の減少にはなんらかの理由があると考えられる。</p> <p>ディスポーザーを使用することで生ごみが発生しないとすると、ごみ発生量が減少している理由の一つである可能性もあるのではないかと考えられるので、ごみ発生量の減少理由について分析していくことは必要ではないか。</p> <p>また、ディスポーザーの残渣が浄化槽汚泥として回収されるのであれば、減少傾向にある浄化槽汚泥の処理量が減少しなくなる可能性も考えられる。</p> <p>以上、私見として申し上げたが、議論の参考となれば幸いである。</p>
中西委員	<p>家庭におけるごみの発生形態は変化していて、お年寄りのうち、家庭で調理をせず、惣菜類を買って食事をすませる人が増加しているのではないか。</p> <p>調理をしない家庭では、食材を買わないので生ごみは減り、代わりに惣菜類を買った際の容器であるプラスチック類のごみが増えるので、プラスチック類のごみをどう減らしていくかという検討が必要になっていくのではないか。</p>
議長	<p>計画の見直しに当たっては単純な数値の上下の評価だけではなく、多角的に考える必要がある。</p>
小木曾委員	<p>目標値を決める際に、人口等が似ている他市を参考にして数値を決めるのか。視察等を行うのか。</p>
事務局	<p>他市の事例は参考にしている。</p> <p>但し、各市で実状が異なる部分が多々あるので、参考としつつ、流山市の実状にあった形での検討を行っている。</p>
稲葉委員	<p>1人1日あたりのごみ発生量については、3ページに記載されているが、家庭系ごみのみの1人1日あたりの発生量についての記載はないのか。</p>

事務局	32ページに資料として記載をしている。
議長	資料としての記載だけではなく、1人1日あたりのごみ発生量とは別に、家庭系ごみだけに着目した目標値も3ページの目標値と合わせて表現するとよりわかりやすくなるのではないか。 ただし、複数の目標値を載せると表現としてわかりにくいということであれば、無理に記載する必要はないと考える。
事務局	いくつも数値を出すと、主となる指標がわかりにくくなってしまう。家庭系、事業系、集団回収を全て含めた1人1日あたりのごみ発生量のみを指標として表現する形として、内訳については表をみれば確認できるような形として記載をしたい。
議長	では3ページの表現としては現状通り、全体の1人1日あたりのごみ発生量のみを表示する形とします。 また、家庭系ごみについて説明を手厚くするのであれば、31ページの文章中かと考えられるので、記述を入れるかどうかを事務局で検討していただきたい。
恵良委員	再生資源や再生エネルギーに関する内容が弱いのではないか。循環型社会の形成についてプロジェクトチームや研究会のようなものを作れないか。
事務局	廃棄物処理基本計画ではなく、環境政策課で所掌している地球温暖化対策実行計画に関連する内容であると考えられるので、今回の見直しについては記載しないものとしたい。
中西委員	焼却場では発電等を行っているのか。
事務局	発電を行うとともに、発生した熱で温水を作り、隣接するホットプラザ下花輪で利用している。
恵良委員	発電の出力と売電量はどの程度か。
事務局	出力は3炉運転時で3000kWであり、発電量の実績は19ページ記載のとおりである。
議題(2)	その他
議長	次に、議題(2)「その他」について何か審議事項はあるか。
事務局	計画見直しにあたり、平成21年度に基本計画を策定した際と同じく、市民及び事業者の皆様アンケートを送付し、回答を依頼したいと考えている。 また、前回のアンケート結果との比較のため、前回の内容を踏襲するものとしたい。 参考資料として、平成21年度実施アンケート調査票を配付したので、今回実施するアンケートについて、意見があればお願いしたい。
鈴木委員	アンケートの調査対象は何名程度を予定しているのか。また、前回の回収率はどの程度か。
事務局	市民2000人及び事業者1000人を予定している。 前回の回収率は市民50.8%、事業者37.4%となっている。
高橋委員	小型家電リサイクル法についての設問を加えたほうがよいのではないか。
事務局	小型家電リサイクル法を認知しているかどうかや、小型家電をどのよ

	うに処理しているかといった設問を加えることとする。
鈴木委員	アンケート実施時期はいつごろを予定しているか。
事務局	4月に発送予定です。 また、アンケート作成内容について委員の皆さんに送付し、確認後に実施する。
議長	他になければ次回の審議会について事務局より説明願いたい。
事務局	次回の審議会は、平成26年4月16日にリサイクルプラザ・プラザ館での開催を予定している。 後日、通知を送付する。
議長	それでは本日の審議会は以上とする。
・開会（午後3時00分）	